

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-32

学校名・団体名	金沢市立犀川小学校
HPアドレス	<a href="http://cms.kanazawa-city.ed.jp/saigawa-e/">http://cms.kanazawa-city.ed.jp/saigawa-e/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「伝え合う」ための教師の支援 ～国語・算数科を通して～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>◎児童の学力向上・教師の指導力の育成・児童の表現力の育成をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○【児童の学力向上】 平日の補充授業と土曜補充授業と家庭学習を効果的に活用することで、児童の基礎学力を向上させる。</li><li>○【教師の授業力の育成】 「わかる楽しさ・できる喜び」のある授業や活動をつくることで、「伝え合う」を中心とした表現する意欲と力を高める。</li><li>○【児童の表現力の育成】 豊かな言語能力（語彙力やコミュニケーション能力など）を身につけるとともに、習得した知識や技能を活用させることで、「伝え合う」を中心とした表現する意欲や力を高める。</li></ul>	

## 1. 活動内容

### (1) 児童の学力向上

#### ①土曜補充授業(国語)の実施(6月27日、7月11日、9月12日、10月24日、11月14日)

学力調査分析で浮き彫りになった本校の課題(記述力の向上等)を重点指導し、問題解決力を養うことをねらいに、教材として全国学力学習状況調査問題等から、「条件付き記述問題」「資料読み取り問題」「説明文の読み取り問題」を作成し、共通授業実践を行った。授業の概要は、作成した問題を教材に、ア. 問題文の把握のしかたを考えさせる。イ. 適切な答え方をとらえさせる。ウ. 期待される解答を説明する。エ. 適用問題Ⅰに取り組みさせる。オ. 答え合わせを行い、同時に直しもさせて理解・定着を図る。カ. 適用問題Ⅱに取り組みさせる。キ. 事後の対策として、授業でのまとめの記述を自分の言葉で考えさせる取り組みをすすめた。ク. 記述力、説明力、要点の把握、読解などの国語力を日頃の授業から高めるよう意識した。

#### ②平日補充授業(国語・算数)の実施(年間を通し週1校時、5年のみ習熟度別併用)

全国学力調査問題で求められる学力(活用力等)の向上と学力向上への意欲を高めること、共同の学習意識を高めることをねらいに、週1時間増時の平日補充授業、チャレンジタイムを実施した。教材を全国過去問題(AB問題)等とおさらいプリント(国語・算数)として、習熟度別グループ学習を併用しながら、「一斉・グループ・個別」を織り交ぜて、意欲が続き高まるように補充授業を行った。全国調査の過去問題Bの授業では、ア. 題意をどのようにつかむか。(問題文が長いので、問われているところから読む)イ. 問われていることからさかのぼって問題文を読んでいく。下線や囲みをつける。ウ. 問題文のどこに問われていることのヒントがあるかおさえる。エ. 問われていることを確認し、解答を自力で考える。オ. 解答の解説をする。カ. 答え合わせを行い、同時に直しもさせて理解・定着を図る。B問題では、『まず、問われていることから始めよ!』で、何を答えなければならぬかから問題文をさかのぼっていく読み方を指導した。『問題点は何か』の追究力、探究力を日ごろの授業でも養っていくことを意識した。

また、グループ学習では全国過去問題(AB問題)を共同で解答させ、4人1組の共同で解答させる時間を取り、「みんなができるように」という「めあて」を持たせ、平均点を上げる取り組みを行った。

さらに、習熟度別・個別学習形態で、前学年、前学期までの総復習を行った。国語科と算数科のおさらいプリントに取り組み、採点も児童自身にさせ(直しをきちんとさせ)て、次に進ませる形態をとった。

#### ③朝学習全校スキルアップタイム(算数)の実施(6月第2週、11月第2週、1月第4週)

四則計算(繰り上がり、繰り下がり、九九)に熟達し、集中力を養うとともに、学習姿勢を向上させ、伸びる(タイムが縮む・努力が向上につながる)喜びを味わわせ、学習意欲を高めることをねらいに、全校一斉の朝学習に取り組んだ。単純計算(4種=四則)100題のスピードを測定し、5分間で解けた題数と時間を記録する。期間は1週間、学期に1回の計年間3回実施した。計算・測定のやり方は、100題の計算プリント5枚組で行う。その後、答え合わせを行い、結果を児童それぞれが記録表に記録させた。集計結果から、記録の向上者を校内表彰した。

### (2) 教師の授業力の育成(国語・算数科)(5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月)

研究テーマを『確かに考え、豊かに表現する子~伝え合う力の育成~』に設定し、年3回の全体研究会では低・中・高学年から国語科の授業づくりを、分科研究では国語科あるいは算数科での授業研究を、全ての教師が外部講師を招聘して年間を通して授業改善の研修を行った。重点として、授業者の側面から『伝え合う原動力となる課題・発問の工夫』(根拠をもって考える子)と学習者(児童)の側面から『伝え合う力をつける支援の工夫』(主体的に話し合う子)の2つの重点を設定し、授業づくりに創意工夫を行った。なかでも、学力調査結果の課題を含め、表現力・記述力・活用力につながる「伝え合う力」を中心課題として授業研究を行った。

### (3) その他児童の表現力の育成にかかわった取組

#### ①コミュニケーションアップ(話型活用)週間の取り組み

#### ②ペア・グループ活動と携帯型ホワイトボードの活用

#### ③授業づくりに向けたOJTの計画的実施

## 2. 成果と課題

さまざまな補充授業の工夫は、学習事項の定着と習熟につながり、日々の授業の学習姿勢の向上と学習意欲の向上につながっている。また、教師の授業力の育成では、国語科にも力点を置き、昨年度の『ノート指導・効果的な板書』の成果をつなぎ、書くことをいやがらずに丁寧に書くという学習姿勢を、さらに学習課題から自分の考えを書くこと、解決方法のみんなとの学び、まとめを自分の言葉で書くというレベルアップにつながった。また、学習問題から学習課題の設定を子どもと共に考える授業づくりに発展させた。さらに、グループ学習、ペア学習の工夫によって主体的な学習活動も意図的に組み込まれ、「ホワイトボード(A3等)」を活用した効果的なグループ学習やグループ発表の授業展開も組み込まれ、授業力が向上してきた。これらの取組によって、児童の学力は、第5学年で取組前段階での過去問題の平均通過率が国語、算数ともに本市の平均より5ポイント程度下回る結果が、12月実施の県主催の学力調査問題では、国語、算数ともに本市の平均を10~15ポイント上回る成果が得られた。この成果をさらに全校的なものにしていくことが課題である。